

## 大原社会問題研究所五十年史

## III 本格的事業の展開から東京移転まで〔一九二三～三六年〕

## 『剰余価値学説史』の翻訳

一九二五年 大正一四年 一九二四(大正一三)年の暮に、京都の書店弘文堂から高野氏に対し、マルクスの『剰余価値学説史』の翻訳出版につき申入れがあり、この申出にもとづき一二月二三日の委員会で討議した結果、その翻訳には研究員が当り、同人社より研究所パンフレットとして出版することに委員の意向がまとまった。その後、年を越えて高野、櫛田氏ほか大島同人社主との間に話がすすみ、翻訳分担も決定した。そしてこの年四月一七日に、森戸氏の翻訳した『剰余価値学説史』第一巻第一分冊(パンフレット第一九号)が出来上った。その後この翻訳は、森戸氏のほか、櫛田、久留間、大内氏によって行われ、第一〇分冊(パンフレット第二九号)まで出版された\*。『剰余価値学説史』の翻訳は本邦における最初の企てであり、その意義は少ない。

\*この翻訳には河上肇氏の参加も考慮され、櫛田氏を通じて同氏と交渉があったのであるが、河上氏はゲラ刷の校閲は承諾したが直接にこの訳業には参加せず、代わりに『資本論』第一巻初版の価値形態論の部分を翻訳し、研究所より発行することを申出た。これは一九二八年に大原研究所篇『資本論首章及附録』として同人社より刊行された。

この年一月、高野氏は、図書係の内藤赴夫氏に、わが国における社会主義文献の目録作成と解説の仕事に着手してはどうかと話し、内藤氏はこれを承諾してその仕事にとりかかった\*。

\*この仕事は一九二九年九月刊『日本社会主義文献』第一集として結実した。

つぎに産業労働調査所への援助について記しておきたい。三月二〇日、産労の野坂鉄(参三)氏が研究所に高野氏を訪れ、産労の現状、とくに財政困難の事情をのべて、何か研究所の依託調査を引きうけたいとの申入れを行った。六月九日には再び野坂氏より、櫛田氏を通じて産労への寄附を依頼して来たが、同月二三日の委員会で、月額五〇円ずつこれに支出することに決定した。その後、産労に対しては、労働年鑑の原稿一部分の執筆と、関東地方労働運動の現況報告を作成するよう依頼した。

法政大学大原社会問題研究所五十年史

発行 1970年11月

編・発行法政大学大原社会問題研究所

[前のページ](#) ← 法政大学大原社会問題研究所五十年史【目次】 → [次のページ](#)

研究活動・刊行物 [OISR.ORG全文検索](#)

法政大学大原社会問題研究所(<http://oisr.org>)